

## 中耳炎の症状と治療

監修：笠井耳鼻咽喉科クリニック 院長 笠井 創 先生

### 中耳炎とは

耳は「外耳」、「中耳」、「内耳」の3つの部分に分けられます。この中で鼓膜の奥にある空腔になっている部分が中耳で、中耳炎はこの部分に炎症が生じて起こる病気です。中耳炎にはいくつもの種類がありますが、子どもによく見られるのは、急性中耳炎と滲出性中耳炎です。

### 急性中耳炎

急性中耳炎は、風邪やインフルエンザ、副鼻腔炎などの鼻の病気にかかった際、鼻やのどに付着したウイルスや細菌が、鼻と耳をつなぐ耳管という細い管を通して中耳に入り、感染することにより起こります。子どもは耳管が未発達で太くて短く、角度も水平に近いことから、細菌などが侵入しやすいと考えられています。中耳炎にかかると、次のような症状があります。

- 耳の痛み
- 耳の聞こえが悪い
- 耳だれが出る
- 発熱

治療法は、抗生物質の内服と、必要に応じて、鼓膜切開による排膿を行います。治療期間は1～2週間が目安です。処方薬は指示を守って、正しく服用してください。子どもは抵抗力が弱いので、飲んだり飲まなかったり、勝手に服用をやめたりすると、薬の効果が十分に発揮できず、再発を繰り返したり、全身状態まで悪くなってしまうことがあります。学校で薬が飲めない場合は、保護者の判断で服用回数を減らしたりせずに、医師に相談しましょう。また、抗生物質で下痢を引き起こすこともあります。水様

便でない限り、薬は続けましょう。心配な場合は医師に相談し、整腸剤を処方してもらい、抗生物質と一緒に服用します。ただし、もし、発疹が出たり、吐き気や嘔吐などの異常がある場合は、服用を中止し、できるだけ早く医師の診察を受けましょう。

炎症が強い場合は鼓膜切開を行います。鼓膜切開は複数回行う場合もありますが、鼓膜の再生力は非常に強く、後に障害を残す心配はありません。切開すると、耳だれや血が混じった膿が出るので、綿は適宜交換し、耳の外に出てきた分泌物は、その都度きれいに拭き取ります。

夜中に突然耳の痛みが生じた場合は、過剰な心配をせず、鎮痛剤を服用し、翌日に耳鼻咽喉科の診察を受けます。鎮痛剤には炎症を抑える作用もあるので、中耳炎を繰り返している場合は前もって家庭に常備しておくといでしょう。痛みがなくなっても、炎症が残っている場合もあります。急性中耳炎を繰り返すと滲出性中耳炎になることもあるので、完治するまで医師の指示に従いましょう。

治療中は、次のようなことにも注意しましょう。

- ・ 最初の数日間は治療に集中し、安静に過ごす
- ・ 洗髪、入浴、水泳などは医師の許可が出てから行う
- ・ 鼻は強くかみすぎず、左右別々にそつとかむようにする

### 滲出性中耳炎

中耳に液体が溜まり、聞こえが悪くなる中耳炎で、子どもに頻発します。別名「中耳カタル」ともいい、症状には以下のようなものがあります。

- 難聴
- 耳のつまる感じ
- 耳鳴り(ガサガサした音などが聞こえる)

子どもの場合、80%以上は自覚症状がなく、次のような状態から周りの人が気づくこともあります。

- ・呼んでも返事をしない。聞き返す
- ・テレビの音を大きくする
- ・落ち着きがない
- ・集中力の低下
- ・内向的
- ・協調性がない

耳鼻咽喉科では、次のような治療を行います。

**【鼻とのどの治療】**副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎、のどの病気が原因の場合は、その病気の治療を行います。

**【通気治療】**耳管から空気を送ることにより、溜まった液体の排泄を促します。ゴム製の器具を使って鼻の入り口から発声と同時に耳に空気を送る方法と、細い金属製の管を鼻の奥に入れて空気を送り込む方法があります。慣れないうちは前者の方法で行います。

**【鼓膜切開】**急性中耳炎の場合と同様、鼓膜を切開し、中耳に溜まった液体を取り除きます。

**【鼓膜チューブの挿入】**鼓膜切開を行っても治りが悪く、何度も繰り返すような時や、症状が重い場合は、切開後に鼓膜に小さなチューブ(細い管)を挿入し、中耳に液体が溜まるのを防ぎます。このチューブは再発しなくなるまで入れておきます。チューブが挿入されている間は、感染防止のため、耳の中をいじったり、水を入れたりしないよう注意しましょう。

**【アデノイドの切除】**アデノイドが大きい場合、耳管をふさいでしまうことがあります。この場合、手術でアデノイドを取り除きます。症状によっては扁桃も摘出する場合があります。

滲出性中耳炎の治療は、短期間で行うことは難しく、浸出液が完全に消失し、聴力が回復するまで、通常3か月くらいの経過観察が必要になります。治りが悪く、繰り返して、長期にわ

たる治療になることもありますが、根気よく通院を続けましょう。小学校中学年くらいの年齢になると治癒する子どもがほとんどです。

治療中、保護者は次のようなことにも注意しましょう。

- ・家庭では常に「聞こえ」の程度に注意を払い、学校で授業に支障がある場合は保護者から担任の先生に連絡し、前の席に座らせる
- ・定期健診を受け、鼻水、鼻づまり、耳の痛みや発熱がある場合は放置せず、すぐに受診する
- ・水泳や洗髪の可否、飛行機に乗る時など、心配なことがある場合は保護者から医師にその都度相談する

## その他の中耳炎

### ■慢性中耳炎

急性中耳炎や滲出性中耳炎を繰り返すうちに、鼓膜に穴が開き、そこから膿が出る「慢性中耳炎」に移行することがあります。鼓膜に穴が開いているため、音が伝わりにくくなり、難聴になる場合もあります。軽度の場合は抗生物質の内服や点耳薬の投与などを行います。穴の大きさによっては、入院治療や手術が必要なケースもあります。

### ■真珠腫性中耳炎

鼓膜の一部が中耳側にへこんで袋状になり、そこに耳垢などがたまって、「真珠腫」と呼ばれる白い塊ができる病気です。真珠腫は骨を溶かす性質を持ち、進行すると内耳や周囲の神経を破壊していきます。そのため、手術により、すべて取り除くことが重要になります。

### ■癒着性中耳炎

滲出性中耳炎を繰り返すうちに鼓膜が薄くなって内側にへこみ、癒着します。症状により、通気治療を行ったり、鼓膜チューブを入れる場合もありますが、重症の場合は手術が必要になることもあります。

【参考サイト】  
笠井耳鼻咽喉科クリニック (<http://www.linkclub.or.jp/~entkasai/>)